



<b>株式会社東芝 横浜事業所 生産技術センター サイトレポート情報</b>	
所在地	横浜市磯子区新磯子町33番地
敷地面積	40,123 m <sup>2</sup> 、建家面積：50,103 m <sup>2</sup> 、緑化率 16.4 %
設立	1970年4月、従業員：706人（2011年4月現在）
主要製品	生産技術に関する研究開発及び設備開発ならびに 建築物等に関する企画、設計、監理ならびに技術指導
ISO14001認証取得	1997年2月、最新更新年月：2009年2月 (ISO認証番号：EC97J1007)



**ごあいさつ**



環境保全責任者 隅田 敏

生産技術センターは、東芝グループのモノづくりのセンターとして、「モノづくりに関する技術・しくみの研究開発」、「モノづくりのあるべき姿の発信」、「技術・しくみのタイムリーな提供」をミッションとしています。  
そして「かけがいのない地球環境」を健全な状態で次世代に引き継ぐため、環境への取り組みを経営の最重要課題として位置付け、「環境調和型生産技術の開発」と「事業プロセスでの環境負荷低減」を推進する「環境経営」を全員参加で展開しています。

**2010年度の環境の主な取り組み**

- ☆環境調和型生産技術の創造と東芝グループへの成果発信  
成果発信：生産技術フェア15件、東芝環境展1件、社外HP2件、社内HP2件。  
環境活動賞：優れた研究テーマ、装置開発を表彰。
- ☆ISO14001環境マネジメントシステム  
1997年4月に認証取得、2009年2月に4回目の更新、横浜事業所との統合へ向けて活動実施。
- ☆CO2排出量の削減  
エネルギー起源のCO2排出量を1993年度（当センター基準年）比、44%削減。
- ☆廃棄物ゼロエミッションの継続  
2001年度から継続中。2010年度の最終処分率は、0.13%。
- ☆全員参加・啓発活動の展開  
環境月間・3R推進月間・省エネ月間による環境啓発活動、環境家計簿参加等。
- ☆地域との協調  
地域への各種環境行事の参加、清掃ボランティア、インターンシップ大学生受入（3大学から3名）等

**製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介**

- 多種多様な東芝グループ製品のモノづくりを進化させるため、8つのコアとなる技術の研究開発に取り組んでいます。
- |   |  |
|---|--|
| ◆薄膜プロセス技術<br>ドライプロセス技術、ウェットプロセス技術・・・                  | ◆部品製造技術<br>精密加工、金型・成形、塗装・コーティング、数値解析、・・・     |
| ◆高密度実装技術<br>高周波回路設計、SMT (Surface Mount Technology)・・・ | ◆制御技術<br>モーター・アクチュエータ、インバータ・・・               |
| ◆光技術<br>光学設計、リソグラフィ、レーザ、検査・画像処理技術・・・                  | ◆メカトロニクス技術<br>機構設計技術、機構制御技術・・・               |
| ◆品質技術<br>信頼性技術、統計的工程管理、調達技術・・・                        | ◆生産システム技術<br>グローバルSCM、CIM/生産管理、生産シミュレーション・・・ |
- 駐在部門である生産企画部建設担当とともに環境に配慮した研究、技術開発を推進しています。

**環境コミュニケーションの紹介**

- ・地域との交流
  - ①事業場周辺の清掃活動（事業場周辺）、②横浜市磯子区環境パネル展
  - ③アマモ花枝採取会（2010年6月）、種まき（2010年11月）
- ・行政との協同行事
  - ①環境映画上映会（2010年6月、横浜市磯子区役所）
  - ②ハマロード・サポーター活動（道路の清掃活動）（横浜市磯子土木事務所）
  - ③環境インターンシップ受入（2010年9月、神奈川県 大学生3名）



## 2011年度 (株)東芝 横浜事業所 環境方針

横浜事業所は、原子力事業に関わるエンジニアリング部門・技術開発部門、半導体の先端技術の研究部門、小型燃料電池の研究開発部門、並びに、材料・部品・電子デバイスの設計・製造部門、最先端の生産技術の研究開発部門、建築設計部門、光配装装置の開発部門を有する多様な事業環境の集合体です。当事業所は、この事業環境、及び東京湾に面した立地環境を踏まえて環境保全を経営の最重要課題の一つと位置付け、環境に配慮した研究開発並びに製品作りを行い、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指して、持続可能な社会の実現に貢献すると共に、より良い地球環境を創造します。

1. 当事業所の事業活動、研究開発、製品、建築設計及びサービスにかかわる環境側面について、生物多様性を含む環境影響を評価し、環境保全活動の実績を踏まえて技術的・経済的に可能な環境目的・環境目標を設定及び定期的な見直しを行い、環境マスマネジメントシステムとその環境パフォーマンスの継続的改善に全員で取り組みます。
2. 環境保全に関する法令、環境保全協定、東芝グループ第4次環境アクションプラン、当事業所が受入に同意した企業行動指針、顧客要求事項、その他の要求事項を順守すると共に、自主管理基準を設けて環境保全のレベル向上を推進します。
3. 事業活動が環境に及ぼす負荷を低減及び汚染を予防するため、次の活動を推進します。
  - 1) 高効率機器の導入、工場・事業場判断基準の順守などによるエネルギー使用の効率化及びCO<sub>2</sub>排出量の抑制
  - 2) 廃棄物総発生量の抑制及び廃棄物ゼロエミッションの継続
  - 3) 化学物質の管理徹底及び排出量の削減
4. 本業業務における環境配慮活動を積極的に推進します。
  - 1) 研究開発及びエンジニアリング業務における環境配慮
  - 2) 環境調和型製品の開発、提供
  - 3) 環境調和型生産技術の研究開発、建設設計のサービスの提供
  - 4) スタッフ及びリーベス業務における環境配慮
  - 5) グリーン調達の推進
5. 東京湾閉鎖性海域に隣接した立地環境を認識し排水管理を充実させると共に、生物多様性の保全を考慮して、地域社会と密着した環境コミュニケーションを継続的に行ない、地域への貢献と協調を図ります。
6. 環境への取組状況を環境報告書等を通じて積極的に公開します。
7. 所内全従業員は環境教育などを通して、環境方針の理解と環境保全に対する意識を向上し、行動を実践すると共に、環境管理の先導者の自覚を持って、その家族の啓発活動を行います。

～ この環境方針は社内外に公開します ～

改定 2011-04-01

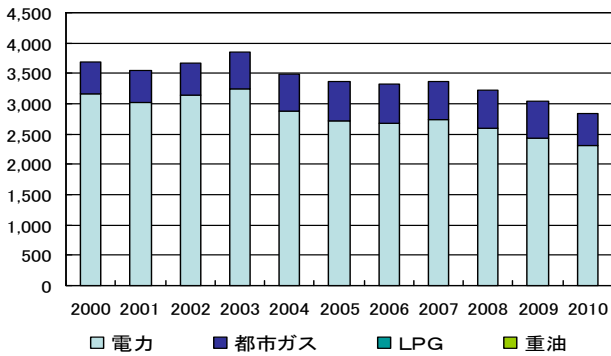


(株)東芝 横浜事業所  
環境保全責任者

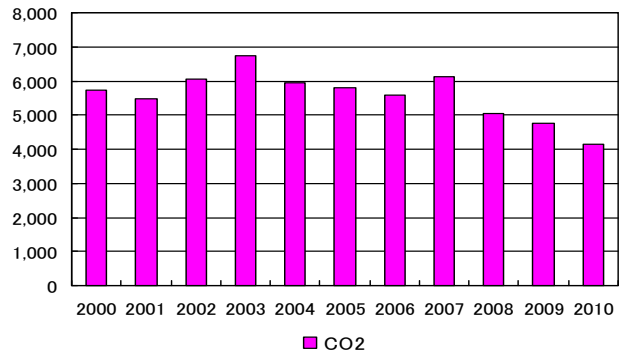
大島次郎

環境負荷データ

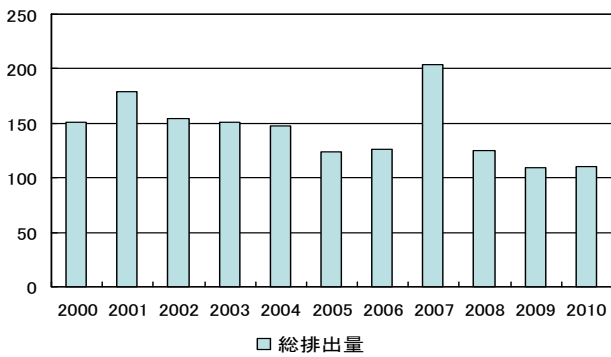
エネルギー使用量(単位:KL)



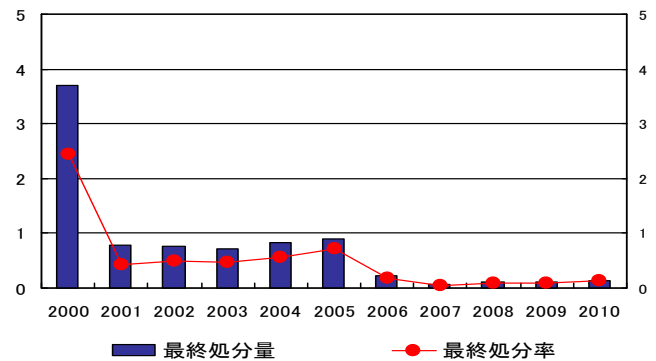
CO<sub>2</sub>排出量(単位:トン-CO<sub>2</sub>)



廃棄物総発生量(単位:トン)

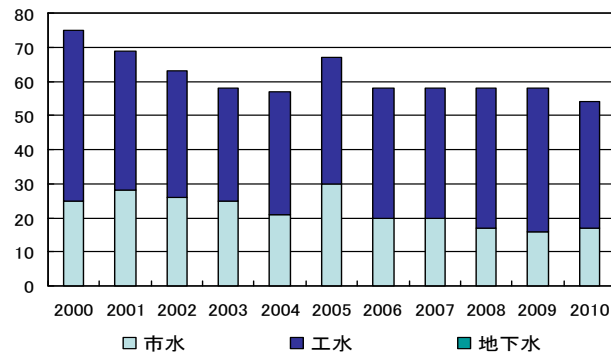


廃棄物最終処分量と最終処分率(単位:トン、%)

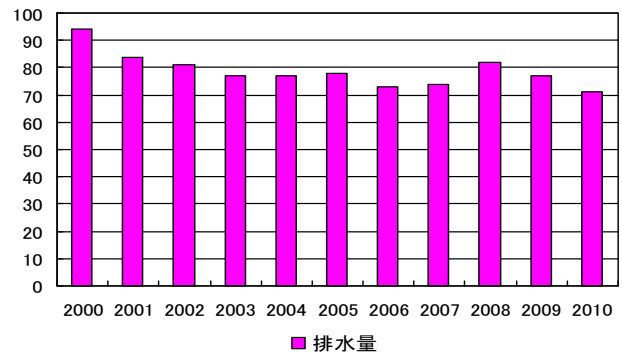


主な廃物名:汚泥、金属、ガラス、プラスチック、油等

水の使用量(単位:千m<sup>3</sup>)



排水量(単位:千m<sup>3</sup>)



化学物質削減対象物質の取扱量(トン)

非該当

化学物質削減対象物質の排出量(トン)

非該当

**遵法管理状況**

<大気測定結果> 小型貫流ボイラー(都市ガス使用) 3台

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(ppm)	94 46	85 45	40 30~34	年2回
SOx(Nm3/h)	対象外	対象外	対象外	対象外
ばいじん(mg/Nm3)	対象外	対象外	対象外	対象外

<排水測定結果> 最終排水口、東京湾へ放流

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.8~8.6(市条例)	6.5~8.3	7.4~7.8	月1回および連続
BOD(mg/ℓ)	25(市条例値)	15	3~4	月1回
COD(mg/ℓ)	25(市条例値)	15	4~8	月1回および連続
SS(mg/ℓ)	70(市条例値)	10	2~6	月1回
窒素(mg/ℓ)	50(市条例値)	10	2~8	月1回および連続
フッ素(mg/ℓ)	15(市条例値)	5	~0.6	月1回

<騒音・振動測定結果> (特定施設なし、工業専用地域にて法規制対象外、自主管理として昼間騒音・振動を測定)

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	75(市条例)	74	51.5~68.7	年1回
	敷地境界:夜	—	—	—	—
振動(dB)	敷地境界:昼	70(市条例)	59	35.1~48.5	年1回
	敷地境界:夜	—	—	—	—

<その他測定結果> (下水道法:非該当)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	—	—	—	—
BOD(mg/ℓ)	—	—	—	—
SS(mg/ℓ)	—	—	—	—

<環境事故・指導指摘・苦情の有無>

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし